



■ 3年生を送る会 読高最高!!!読谷VICTORY!!!!



2月1日に3年生を送る会が開催されました。3年生にとっては高校生活最後の行事でもあり、各クラスがより団結して、試合中には、強い絆が感じられるほど息の揃った熱戦が繰り広げられ、その白熱した試合にオーディエンスも燃え上がり、会場が熱気に満ち溢れていました。また、4月に新入生歓迎球技大会で厳しい洗礼を受けた1、2年生も入念な作戦を考えたり、放課後の練習を重ね、3年生へのリベンジに燃えていて、試合では粘りのレシーブなどでボールをつなぎ、練習の成果とその成長を見せつけ全力で頑張っていました。また、試合中にところどころで抗議やトラブルが見られましたが、選手や、生徒全員の理解と協力、そして審判を担当してくれた男女バレー部の皆さんの賢明な判断や丁寧な対応のおかげで無事に大会を進行することができました。本当にありがとうございました。そして本当にお疲れ様でした。読高最高!!!読谷VICTORY!!!!

念な作戦を考えたり、放課後の練習を重ね、3年生へのリベンジに燃えていて、試合では粘りのレシーブなどでボールをつなぎ、練習の成果とその成長を見せつけ全力で頑張っていました。また、試合中にところどころで抗議やトラブルが見られましたが、選手や、生徒全員の理解と協力、そして審判を担当してくれた男女バレー部の皆さんの賢明な判断や丁寧な対応のおかげで無事に大会を進行することができました。本当にありがとうございました。そして本当にお疲れ様でした。読高最高!!!読谷VICTORY!!!!

念な作戦を考えたり、放課後の練習を重ね、3年生へのリベンジに燃えていて、試合では粘りのレシーブなどでボールをつなぎ、練習の成果とその成長を見せつけ全力で頑張っていました。また、試合中にところどころで抗議やトラブルが見られましたが、選手や、生徒全員の理解と協力、そして審判を担当してくれた男女バレー部の皆さんの賢明な判断や丁寧な対応のおかげで無事に大会を進行することができました。本当にありがとうございました。そして本当にお疲れ様でした。読高最高!!!読谷VICTORY!!!!

(生徒会長 喜友名朝輝君)

■ ダンスフェスティバル 頑張りました!!

平成30年度沖縄県学校ダンスフェスティバルが1月26日に行われ、創作ダンスの部に読谷高校ダンス部が出演しました。「パワー全開 a l i が糖」と題し、小さく可愛く頑張り屋、パワー全開のありんこ達の世界を表現しました。少しお堅い創作ダンスの部門ではとてもユニークな演技で、

小さく可愛く頑張り屋、パワー全開のありんこ達の世界を表現しました。少しお堅い創作ダンスの部門ではとてもユニークな演技で、



「あんな高校、名前を書けば誰だって入るんだ!」そう言い放った兄に父は怒るでもなく、「そんなこと言うな」と、ただ悲しそうに呟きました。そのことを兄が覚えているとは思っていませんでした。ですが父が亡くなった日の晩、兄は私に言いました。「あの人にとって高校進学っていうのは夢だったんだよな。あんなこと言わなきゃよかった。握手すればよかった・・・」私が結婚する前、妻の実家に連れてあいさつに行った時とても不安でした。父が何がしかの失態を演じるのではないかと思ったのです。しかし、父は普段とは全く違っていました。その時の父の話は本当に面白く、私を含めみんな大笑いしました。そんな父は見たことがなく、私は驚きました。「自分はこの人のことを何も知らないんだな」と思いました。結局、父とお酒を飲むことはありませんでした。今いきなり目の前に父が現れても全く驚かないので、一緒に飲んでみたい気もします。もうすぐ7回目の命日がやってきます。\*\*\*\*\*

キレキレのダンスを披露。会場に来た観客を魅了しました。応援に来てくれた皆さんありがとうございました。もうすでにガクアル春(2月23日土曜日:ミュージックタウン音市場)練習も開始しており、頑張っています。これからも応援お願いいたします。(ダンス部顧問 数学 新城貴史先生)

■ 生き生き活性化推進支援事業報告会

本校は県教育委員会の研究指定校として今年度1年間、「新大学入学者選抜で求められる『学力の3要素』を育む取り組み」をテーマに取り組んできました。その報告会を2月5日に視聴覚教室で開催しましたが、県教育庁や県総合教育センター、他の高校からも約20名の先生方に参加頂きました。ICTを活用して基礎学力の定着に向けての「チャレンジカップin読谷」などの取り組みやその効果などについて進路部の川端俊一先生に発表してもらいました。川端先生のパワーポイントを用いての発表は大変分かりやすく、参加された先生方からは「とても勉強になりました」と大変好評でいい報告会ができました。感謝です!!

題名: みやざき中央新聞「取材ノート」より  
著者: 山本孝弘

『叶わなかった高校進学』  
肉体は単なる乗り物であって、本来の自分は魂である。子どもの頃から私はそう感じていました。先日、5年前のみやちゆう(新聞)を読み返していると、スピリチュアル・カウンセラーである神光幸子さんの記事を見つけました。記事を読みながらあらためて「魂」という真理が心に落ちました。7年前に肉体を離れた父の魂は、今どこにあるのか。生き方が下手で、反面教師を絵に描いたような父でした。母に迷惑を掛け続け、それでも父なりに生き抜いた73年間は、彼にしかわからない思いの中で日々苦しくもがいていたこともあったのではないかと思います。

戦後の貧しい時代、5人兄弟の次男として生まれた父は小学校の時に父親を亡くしました。一つ違いの長男と二人、家計を助けるために中学を出てすぐ工場で働きました。父のお通夜の時、末っ子の叔母が涙を流しながら言っていたことを、私は一生忘れないと思います。

「兄ちゃんは頭がよかった。中学3年の時、先生が家に何度も来て『なんとか高校に通わせてやってほしい』と母ちゃんを説得してた。でもその度に兄ちゃんは『幼い弟や妹のために僕は働きます。高校に興味はありません』って言ったんだよ。兄ちゃん、ありがとう・・・」

私の兄が高校受験をした日は、家族の中で父だけがそわそわしていました。そして合格したと分かった時、父はとても興奮し、「握手しよう」と兄に手を差し出しました。でも思春期の息子というものは素直ではありません。

「あんな高校、名前を書けば誰だって入るんだ!」そう言い放った兄に父は怒るでもなく、「そんなこと言うな」と、ただ悲しそうに呟きました。

そのことを兄が覚えているとは思っていませんでした。ですが父が亡くなった日の晩、兄は私に言いました。

「あの人にとって高校進学っていうのは夢だったんだよな。あんなこと言わなきゃよかった。握手すればよかった・・・」

私が結婚する前、妻の実家に連れてあいさつに行った時とても不安でした。父が何がしかの失態を演じるのではないかと思ったのです。

しかし、父は普段とは全く違っていました。その時の父の話は本当に面白く、私を含めみんな大笑いしました。そんな父は見たことがなく、私は驚きました。「自分はこの人のことを何も知らないんだな」と思いました。

結局、父とお酒を飲むことはありませんでした。今いきなり目の前に父が現れても全く驚かないので、一緒に飲んでみたい気もします。もうすぐ7回目の命日がやってきます。

\*\*\*\*\*  
今回は、みやざき中央新聞からの記事の紹介です。〈握手すればよかった・・・〉の言葉が心に響きます。「さればとて墓に布団も着せられず」、「親の恩齒が抜けてからかみしめる」。